

## 令和4年度第2回宗像市男女共同参画推進懇話会 議事録

日時：令和4年9月21日（水）15時00分～16時00分

場所：宗像市役所北館 1階 103A会議室

出席者（敬称略）

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
石山 さゆり	○	小森 雅子	○	山田 雄三	欠
久保 春奈	○	石橋 文恵	○	北原 一臣	○
入江 有希子	○	小野 稔	○	戸畑 典子	○
永嶋 久子	○				

事務局出席者：田村、吉武、飛永

### 1 はじめのあいさつ

宗像市男女共同参画推進懇話会 会長 石山さゆり

○委員

●事務局

### 2 議事録署名人選出

議事録署名人： 久保 春奈

### 3 議事

#### (1) 令和3年度事業実績報告書について（資料1）

- 令和3年度から5年間計画として第3次男女共同参画プランが開始している。事業実施の翌年に評価を行うので、今回が初めての評価となる。
- プランの進行にあたっては、毎年事業担当課が目標を立てて事業を進行。資料1は、毎年の目標に対し、事業の実施状況を記入し、達成度についての市の自己評価を A～E の5段階で記入したものである。事業年度終了後、担当課が実績を入力し、担当課に対し男女共同参画推進課がヒアリングを行い、この表を作成している。
- この表をもとに、後に説明する資料2の重点項目評価シートを作成している。懇話会委員評価を作成する際、重点項目シートの内容をさらに詳しく知りたい場合や、重点項目シートの中で割愛されている事業について知りたいときは、資料1の実績報告を参照いただきたい。
- 項目について説明を行う。事業番号は、一つの事業番号に対し、複数の課の事業が紐づいていることがある。事業（数値目標）の欄は、毎年の状況の変化に応じその年の目標を記入しているもの。実施状況報告の欄には、令和3年度の実施内容を記載しており、その隣には事業実施上の課題や今後の取り組みを記載している。一番右に、5段階評価で担当課の自己評価を記入している。第2次プランでは、事業ひとつずつに委員が達成度評価をつけていたが、今年度以降は事業ごとの評価がなくなった代わりに、資料2の重点項目評価シートを作成していくことになる（後述）。最終ページには、A～Eの評価基準を掲載している。
- 今年度、該当事業無しという評価をしている部分があるが、その理由としては、新型コロナウイルス感染症によるものであった。一つは相手方（地区コミュニティ運営協議会）の事業中止によるもの、また、感染状況の悪化により市が事業所への訪問啓発を

取りやめたことによるものであった。その他については、A・B の評価が多くなっている。B の理由としては、今後さらに充実させていく必要があるという理由で B 評価となっている事業が多いというヒアリング結果である。

- 資料1の実施状況報告は、ホームページ等で公表する予定。例年のようにこの資料に対して委員が行う作業は無いが、懇話会委員評価を作成する際の資料として活用いただきたい。
- 昨年度から評価方法がずいぶん改善されたと思う。
- 1ページの事業番号1で「」と空欄になっている箇所がある。
- 記入漏れである。昨年度は共催事業が6回計画され、3回実施となった。内容は、高齢化社会に関するものや、性暴力等に関するものであった。
- 担当部署評価・今後の方向性は、担当課と事務局ですり合わせてあるということか。
- その通りである。評価後にヒアリングを行い、必要に応じて評価修正も行っている。
- 担当課によって評価尺度が違うことがあるのか。同じ事業内容で評価が違うことがあるか。例えば男女共同参画推進課事業の事業番号1は、事業実施ができていないのにA評価。また、コミュニティ協働推進課の事業番号1は評価 E で、事業番号2は C 評価となっているが、事業実施状況に書いてある内容は同一。担当課評価はどのようになされていると考えたらよいか。
- 男女共同参画推進課の事業番号1については、結果的に相手方からの中止申し入れにより計画していた6回の共催講座のうち3回が中止になったが、実施に向けての情報提供や働きかけ、実施に向けての協議は行ったためA評価とした。コミュニティ協働参画推進課の事業番号1については、女性登用の説明機会がなくなり、まったく働きかけを行っていないためE評価。事業番号2については、オンラインのものを中心とした講座・研修の情報提供・参加勧奨等の働きかけは行ったため、十分ではないが市としては働きかけを一部実施したということでC評価とした。
- 市が働きかけをしたというだけでなく、実際に活動として実施されたのがA評価ではないだろうか。
- 評価が適当でないのでは、という意見や、もっと取り組みが必要ではというような意見も含めて、委員評価に書けばいいと思う。もっと事業内容や評価の理由を詳しく書いた方が分かりやすいかもしれない。
- そのように評価をつけていただいてよい。コメントに記入いただきたい。
- 評価理由としては、絶対評価も相対評価もあるということか。
- 基本的には目標に対しての絶対評価であるべきだが、コロナで事業実施が滞っている部分については、目標は達成していないものの状況が許す範囲でできることはやったというような相対評価的な評価となっているものもある。

(2) 令和3年度重点項目評価シートについて（資料2）

- 実績及び自己評価について
- 委員評価について
- 5つの基本目標ごとにページを作成している。資料1にあった市の自己評価を集計した数を示している。施策の進行状況には、基本目標についての進行状況を男女

課で記入している。

- 「主な事業の実施状況」では、重点項目に対応する事業を抜粋し記載している。重点目標は、プランの中で定めているものである（第3次男女共同参画プランの 17 ページを参照、基本目標ごとに2~3つの重点項目を定めている）。本日配布追加の資料1では、重点項目ごとにどの事業番号になるかをまとめて示している。
- 今回初めての評価となるので、抜粋基準がこれでよいかも意見いただきたい。事業番号がすべて載っていないが、載っていないものも見たい場合は、資料1を見るとすべて載っている。すべての事業を重点項目シートに載せるとなると量が多くなりすぎ見にくくなるので、重点目標に対応しているものを抜粋している。
- 資料1・2ともに公表することにはなるが、評価の際には資料2の重点項目シートのみを見ることで評価はできるようにしている。
- 目標値と実績には、基本目標ごとに設定された数値目標に対しての実績値を示している。前回懇話会で、経年での推移を見たいという意見が出ていたので、追加資料2として目標値に対する実績値の推移表を配布している。今後、毎年数値を書き足していく。
- 今後の取り組みについては、ヒアリングを通して男女課の方でまとめた今後の方向性を記載している。
- 評価の欄には、事務局評価をつけているが、数値的な達成度を基本とし、事業の実施状況を総合的に加味して評価した。例えば、基本目標1の女性登用率でみると、数値的にはA評価となるような実績であるが、取り組みが十分でなくさらに取り組んでいく必要があると考え、評価を1段階下げてB評価としている。
- 懇話会評価には、各委員の評価をつけていただく。こちらも数値の達成度を基本としながらも、事業の取り組み状況を総合的に加味し、評価いただきたい。委員評価コメントにはもっとこういう事業をした方がいいという市の事業への提案や、委員のABC評価の理由や補足コメントなどを記入いただきたい。
- 記入方法としては、文章である必要はなく、箇条書きの言い切り型で簡潔に書いていただいてよい。手書きしやすいように作っているので、打ち込みで作った別紙（様式自由）を付して提出してもよい。紙での提出も可。ただし、提出もれチェックのため、必ず記名をお願いしたい。提出意見は、次回懇話会でまとめていく。
- ABC評価は5つ必ず評価・提出していただきたい。コメントは5つすべて記入必須とはしないが、なるべく多くの意見をいただきたいので記載をお願いする。
- 事業評価の集計欄は、全事業の集計か。また、事務局評価の対象範囲は、全事業か、重点事業だけか。それとも目標値に対しての達成度のみの評価か。
- 集計は全事業を対象に集計している。見やすさ重視で事業実施状況には抜粋事業の内容を掲載しているが、事務局評価は、重点事業だけでなく全事業をトータルで見て評価している。そのトータルの到達度を図る指標尺度として数値目標設定を基準としている。そのため、目標値に対する数値的な達成度から評価し、事業実施状況を加味した結果、評価が下がるということがありうる。今回の基本施策1では、そのように評価を下げている(A→B)。
- 資料1と2と両方見ないといけないのは負担に感じる。

- 基本的には資料 2 の重点項目評価シートのみを見て評価いただけるようにしている。抜粋している事業の中でも全部の内容を抜き出してはいたないので、詳細に知りたい場合は資料1を参照。また、コメントについては、重点項目以外の内容についてコメントしていただくことも可。量も自由。
- 実際に記入していく中で疑問が出てくることがあると思うので、随時質問を受け付け、質問と回答を委員全体に共有する。質問は電話でもメールでも可。
- 入力用の様式が欲しい。
- 用意する。

委員評価提出 〆切：10月12日(水)

質問提出 〆切：10月5日(水)

#### 4 事務連絡

- 次回会議日程の回答を9月30日までに提出を。

次回 第3回宗像市男女共同参画推進懇話会（11月ごろ予定）

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進懇話会 委員

久保 春奈

